

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 23 日作成)

小委員会名	環境振動測定分析小委員会		主 査 名：富田 隆太 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：横山 裕
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境振動測定事例の収集及び測定やアンケート等を行い、測定分析方法の体系化を目指す。</li> <li>・2009 年度 文献調査などによる現状の把握。</li> <li>・2010～2012 年度 道路交通振動、鉄道振動、床振動等を対象とした測定及び技術者へのアンケート調査の実施と測定・分析手法の検討。</li> <li>・2012 年度 測定分析方法の体系化。</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：富田隆太 (日本大学) 幹事：小谷朋央貴 (フジタ) 委員：石橋敏久 (鹿島)、伊積康彦 (鉄道総研)、足立大 (リオン)、川久保政茂 (円石コンサルタント)、佐野泰之 (愛知工大)、平尾善裕 (小林理研)、平松和嗣 (NTT ファシリティーズ総研)、松本泰尚 (埼玉大)、藪下満 (YAB 建築・音響設計)、横島潤紀 (神奈川県)、尻無濱昭三 (鉄建建設)、平光厚雄 (建築研究所)、森川和彦 (清水建設)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee1_measurement/AIJ_EVSC1index2012.html">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee1_measurement/AIJ_EVSC1index2012.html</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 鉄道振動の分析結果のまとめを行い、建築学会大会にて 2 編発表した。 2. 現状の測定方法及び分析方法の問題点の抽出を行うための技術者を対象としたアンケート調査を実施し、分析を行った。 3. 建築物の環境振動に関する測定・分析のマニュアル案について検討した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 建築物の環境振動に関する測定・分析のマニュアル案の作成の執筆に取り組む。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 20 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本騒音制御工学会秋季研究発表会(2009 年度)に 1 件、日本建築学会大会(2011 年度 1 件 2012 年度 2 件)に 3 件の発表を行った。</li> <li>2. 環境振動性能設計ハンドブックの出版、講習会の開催に参画した。</li> <li>3. 音響技術(2012 年度)に 1 件執筆した。</li> <li>4. 床振動については、人による加振力の違い等の検討や JISA1418-2 の衝撃力特性(2)を有するボールの床振動の加振結果について検討を行った。</li> <li>5. 道路交通振動については、木造 2 階建ての建物を対象とし、建物内での振動伝搬特性の調査、検討を行った。</li> <li>6. 鉄道振動については、立体交差化事業により、線路構造が平坦軌道から高架軌道へ変更になった木造アパートを対象に、高架化による振動特性の検討を行った。</li> <li>7. 現状の測定方法及び分析方法の問題点の抽出を行うための技術者を対象としたアンケート調査を実施し、分析を行った。</li> <li>8. 建築物の環境振動に関する測定・分析のマニュアル案について検討した。</li> </ol>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。